

5. 総括

1 指標の評価結果

基本目標ごとの指標の評価結果は、以下のとおりです。

また、さいたま市総合振興計画で「成果指標」や「事業としての目標指標」に設定されている指標については、さいたま市総合振興計画における評価についても参考として示しています。

(1) 基本目標1 地球温暖化の問題に地域から行動し、脱炭素社会を実現する

成果指標		頁	対前年度比	対年度目標値比	(参考) 指標動向※1
市民1人当たりの温室効果ガス排出量		18	B	C	△
市域の再生可能エネルギーなどの導入量		18	A	A	△
施策の柱	目標指標	頁	対前年度比	対年度目標値比	(参考) 達成度※2
1-1 省エネルギー化の推進	家庭部門における温室効果ガス排出量(市民)	18	C	C	B
	産業部門・業務部門における温室効果ガス排出量(事業者・行政)	18	A	C	B
	市役所の事務事業における温室効果ガス排出量(行政)	18	C	C	C
	市内の乗用車の新車登録台数に占める次世代自動車の割合	18	A+	A	B
1-2 持続可能なエネルギー政策の推進	太陽光発電設備等を導入した施設(公民館)	19	A+	B	B
	公共施設への再生可能エネルギー等の導入(電力の地産地消)	19	-	B	B
	再生可能エネルギー等の導入施設数	19	-	-	-
1-3 環境未来都市の実現	「生活支援サービス」の実装数	19	A+	C	B
1-4 気候変動への適応	適応策に資する事業数	19	B	C	

対前年度比の評価

- A+ : 前年度より良化している。(+10%以上)
- A : 前年度より概ね良化している。(+10%~+1%の範囲内)
- B : 前年度と変わらない。(±1%の範囲内)
- C : 前年度よりやや悪化している。(-1%~-10%の範囲内)
- D : 前年度より悪化している。(-10%以下)
- : 評価なし

対年度目標値比の評価

- A+ : 年度目標値を大きく上回り達成。(+50%以上)
- A : 年度目標値を上回り達成。(+50%~+1%の範囲内)
- B : 年度目標値を達成。(±1%の範囲内)
- C : 年度目標値を下回り未達成。(-1%~-50%の範囲内)
- D : 年度目標値を大きく下回り未達成。(-50%以下)
- : 評価なし

※ 計画目標値を達成した指標は、上記評価方法によらず、対前年比評価及び対年度目標値比評価ともに「A+」としています。

参考※1 さいたま市総合振興計画における成果指標の動向

- △ : 基準値に対して向上
- : 基準値に対して横ばい(変動率±0.5%の範囲内)
- ▼ : 基準値に対して低下
- / : さいたま市総合振興計画において設定なし

参考※2 さいたま市総合振興計画における事業としての目標指標の達成度

- A : 目標を上回って達成(達成率110%以上)
- B : 目標をおおむね達成(達成率90%以上110%未満)
- C : 目標を未達成(達成率90%未満)
- / : さいたま市総合振興計画において設定なし
- : 最新年度の数値なし

(2) 基本目標2 ともに取り組み参加する、循環型都市を創造する

成果指標		頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 指標動向 ^{※1}
市民1人1日当たりのごみの総排出量		52	A+	A+	△
ごみの総排出量に対する最終処分比率		52	C	C	▼
施策の柱	目標指標	頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 達成度 ^{※2}
2-1 3Rの推進による廃棄物の減量	市民1人1日当たりの家庭系ごみの総排出量	52	A	B	B
	事業系一般廃棄物排出事業者への啓発・指導件数	52	A	A	B
2-2 廃棄物の循環利用と適正処理の推進	焼却灰及び飛灰の資源化率	52	C	C	B
	不法投棄情報通報協定件数	52	A	A+	B

(3) 基本目標3 自然と共生し、多様ないのちが息づくまちを実現する

成果指標		頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 指標動向 ^{※1}
水辺や緑地の保全・再生活動に関心がある市民の割合		80	C	C	▼
施策の柱	目標指標	頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 達成度 ^{※2}
3-1 生物多様性の保全と再生	自然観察・環境学習会に参加して生物多様性について理解した参加者の割合	80	A	A	B
3-2 緑の保全と創出	オープン型緑地の整備率	80	A	A	A
3-3 水環境の保全と活用の推進	水辺のサポート制度登録団体数	80	A	C	B

対前年度比の評価

- A+ : 前年度より良化している。(+10%以上) A : 前年度より概ね良化している。(+10%~+1%の範囲内)
 B : 前年度と変わらない。(±1%の範囲内) C : 前年度よりやや悪化している。(-1%~-10%の範囲内)
 D : 前年度より悪化している。(-10%以下) - : 評価なし

対年度目標値比の評価

- A+ : 年度目標値を大きく上回り達成。(+50%以上) A : 年度目標値を上回り達成。(+50%~+1%の範囲内)
 B : 年度目標値を達成。(±1%の範囲内) C : 年度目標値を下回り未達成。(-1%~-50%の範囲内)
 D : 年度目標値を大きく下回り未達成。(-50%以下) - : 評価なし

※ 計画目標値を達成した指標は、上記評価方法によらず、対前年比評価及び対年度目標値比評価ともに「A+」としています。

参考※1 さいたま市総合振興計画における成果指標の動向

- △ : 基準値に対して向上 □ : 基準値に対して横ばい(変動率±0.5%の範囲内) ▼ : 基準値に対して低下
 / : さいたま市総合振興計画において設定なし

参考※2 さいたま市総合振興計画における事業としての目標指標の達成度

- A : 目標を上回って達成(達成率110%以上) B : 目標をおおむね達成(達成率90%以上110%未満)
 C : 目標を未達成(達成率90%未満) / : さいたま市総合振興計画において設定なし - : 最新年度の数値なし

(4) 基本目標4 安全で誰もが暮らしやすい生活環境を実現する

成果指標		頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 指標動向※1
生活環境(空気・水のきれいさ、静けさ、悪臭)に満足している市民の割合		106	A	C	
施策の柱	目標指標	頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 達成度※2
4-1 大気質の保全・交通環境対策	大気汚染物質の環境基準達成率	106	A+	A+	
4-2 水質の保全	水質汚濁に関わる環境基準達成率 (公共用水域の測定計画地点7地点)	106	B	B	
4-3 景観の保全	景観重要建造物・樹木の指定件数	106	A+	A+	B

(5) 基本目標5 すべての主体が手を取り合い、環境の保全と創造に意欲的に取り組むまちを実現する

成果指標		頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 指標動向※1
環境に配慮した行動を実施している市民の割合		124	C	C	▼
施策の柱	目標指標	頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 達成度※2
5-1 環境教育・環境学習の推進	子どもエコ検定に取り組んだことで環境について児童が興味を持った学校の割合	124	A+	A+	B
	市と連携して環境教育・学習の推進に取り組む民間事業者等の団体数	124	A+	A	A
5-2 環境保全活動の促進	環境イベントの参加者数合計	124	D	A	B
	SDGs企業認証数	124	A+	A+	A
	環境美化活動(市民清掃活動)の参加者数	124	A+	A+	B

対前年度比の評価

- A+ : 前年度より良化している。(+10%以上)
- A : 前年度より概ね良化している。(+10%~+1%の範囲内)
- B : 前年度と変わらない。(±1%の範囲内)
- C : 前年度よりやや悪化している。(-1%~-10%の範囲内)
- D : 前年度より悪化している。(-10%以下)
- : 評価なし

対年度目標値比の評価

- A+ : 年度目標値を大きく上回り達成。(+50%以上)
- A : 年度目標値を上回り達成。(+50%~+1%の範囲内)
- B : 年度目標値を達成。(±1%の範囲内)
- C : 年度目標値を下回り未達成。(-1%~-50%の範囲内)
- D : 年度目標値を大きく下回り未達成。(-50%以下)
- : 評価なし

※ 計画目標値を達成した指標は、上記評価方法によらず、対前年比評価及び対年度目標値比評価ともに「A+」としています。

参考※1 さいたま市総合振興計画における成果指標の動向

- △ : 基準値に対して向上 □ : 基準値に対して横ばい(変動率±0.5%の範囲内) ▼ : 基準値に対して低下
- / : さいたま市総合振興計画において設定なし

参考※2 さいたま市総合振興計画における事業としての目標指標の達成度

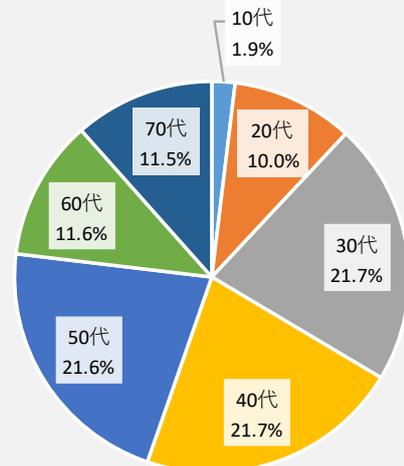
- A : 目標を上回って達成(達成率110%以上) B : 目標をおおむね達成(達成率90%以上110%未満)
- C : 目標を未達成(達成率90%未満) / : さいたま市総合振興計画において設定なし - : 最新年度の数値なし

2 市民アンケート結果

本市では、第2次さいたま市環境基本計画の基本目標の実現状況について、指標及び数値目標による定量的評価と市民の意識調査による定性的評価を行うこととしています。そこで市民の環境施策に対する評価や関心の状況等を調査するため、平成23年から毎年、環境に関するウェブアンケートを、市民1,000人を対象に実施しています。

<調査概要>

- 期間：令和5年7月22日～7月24日
- 対象：15歳以上のさいたま市在住者1,000人



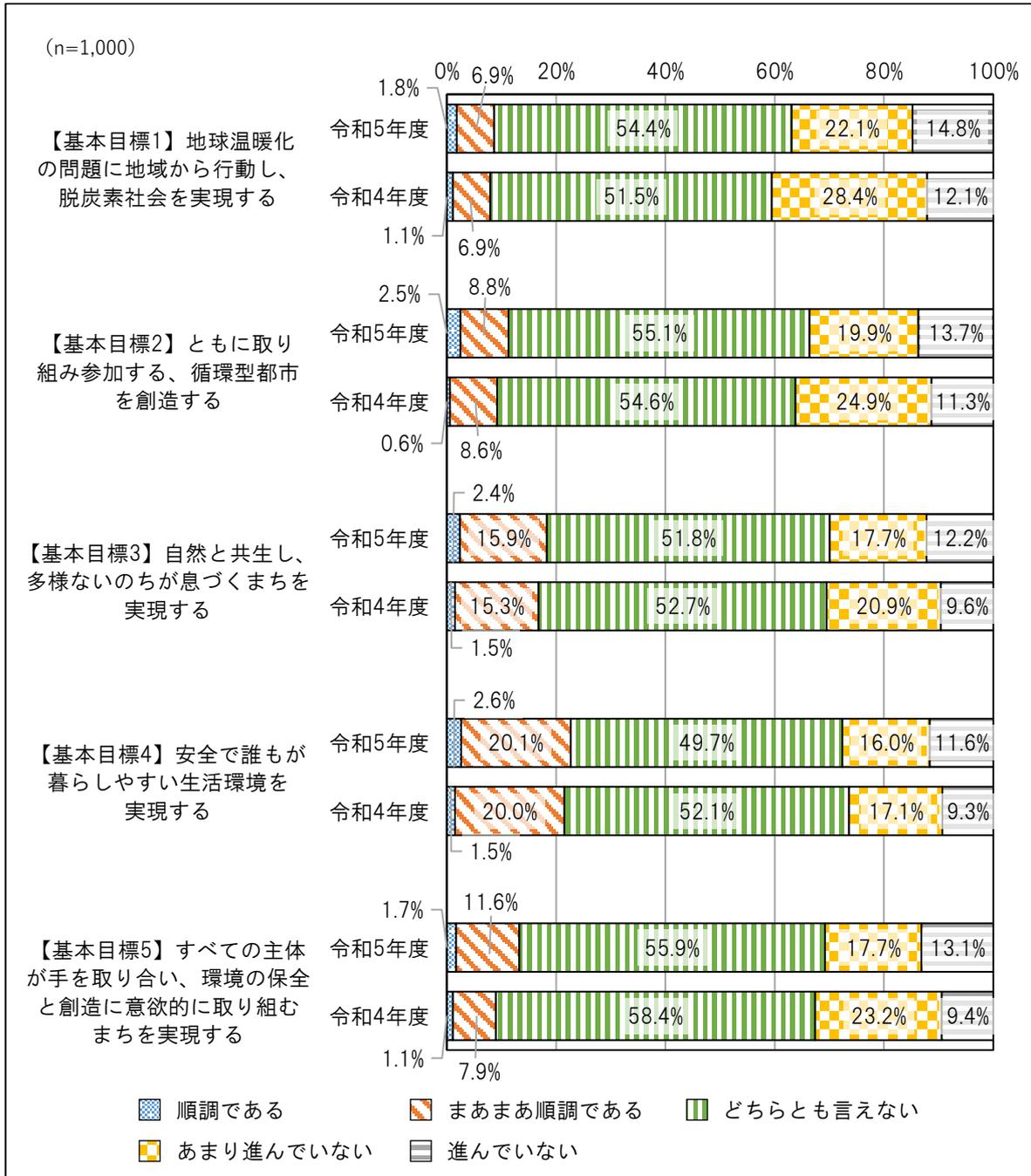
【回答者の年齢割合】

※ 各図中の「n」は回答人数を示しています。

Q1. 基本目標1から5の進捗状況について

基本目標1から5の進捗状況について、「順調である」と「まあまあ順調である」と回答した割合が最も高いのは、基本目標4で22.7%、次いで基本目標3で18.3%となりました。

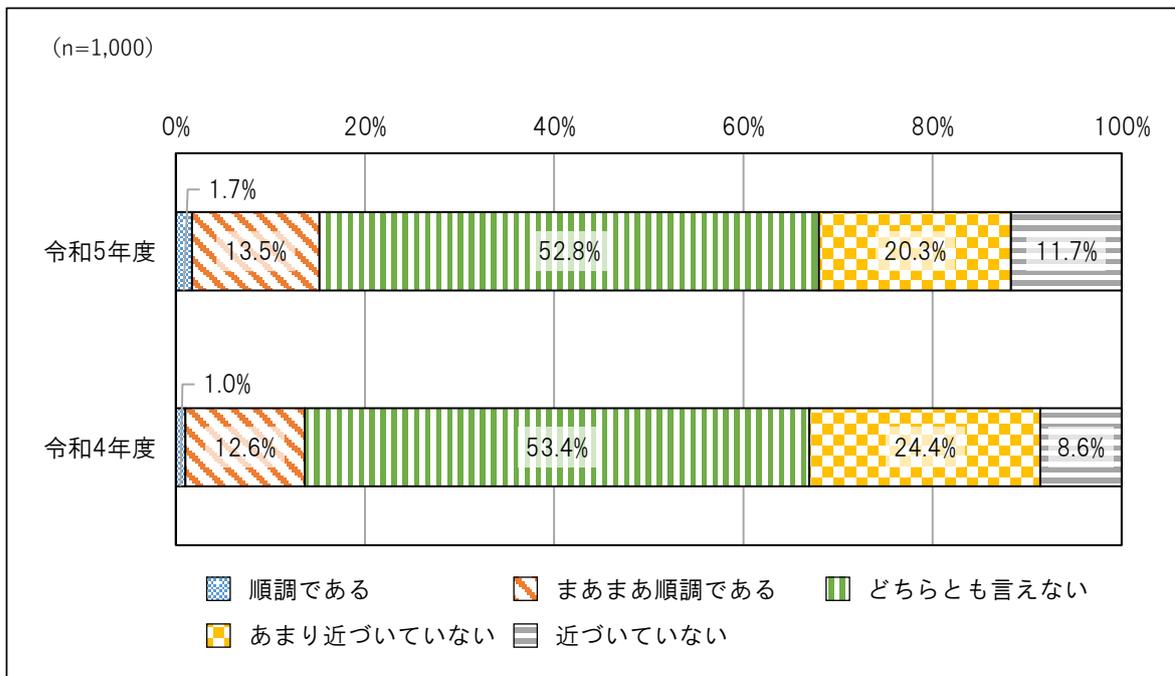
令和4年度調査と比較をすると、全ての項目で「順調である」と「まあまあ順調である」と回答している割合がわずかに増加しました。



Q2. さいたま市が目指す「望ましい環境像」の実現について

「望ましい環境像」実現の達成状況について、「順調である」と「まあまあ順調である」と回答した割合が15.2%であったのに対し、「あまり近づいていない」と「近づいていない」と回答した割合は32.0%でした。

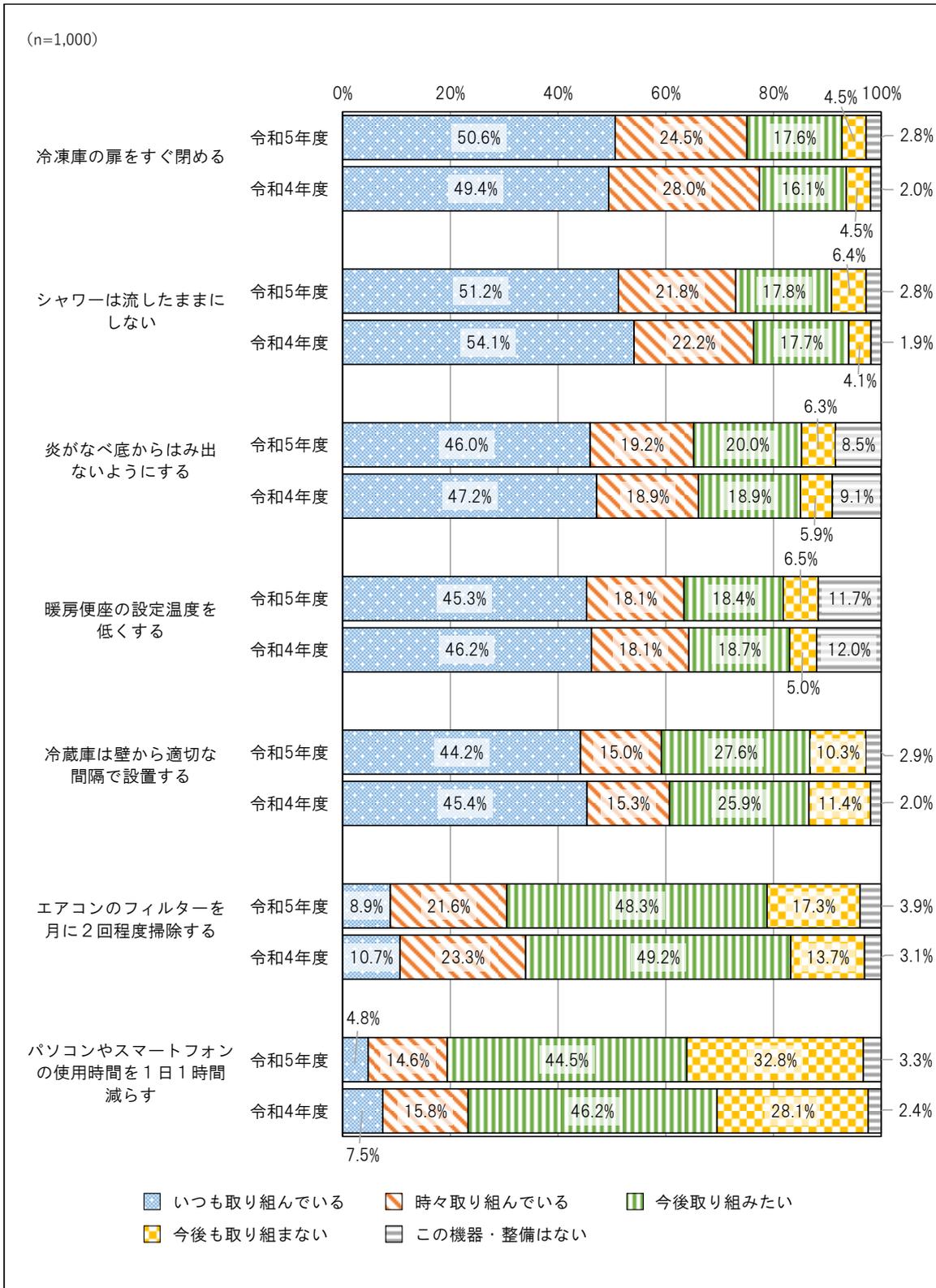
令和4年度調査と比較をすると、「順調である」と「まあまあ順調である」と回答している割合がわずかに増加しました。



Q3. 家庭でできる地球温暖化対策について、日頃行っている取組

家庭でできる地球温暖化対策について、「いつも取り組んでいる」と「時々取り組んでいる」と回答した割合が最も高いのは「冷蔵庫の扉をすぐ閉める」で75.1%、次いで「シャワーは流したままにしない」で73.0%となりました。

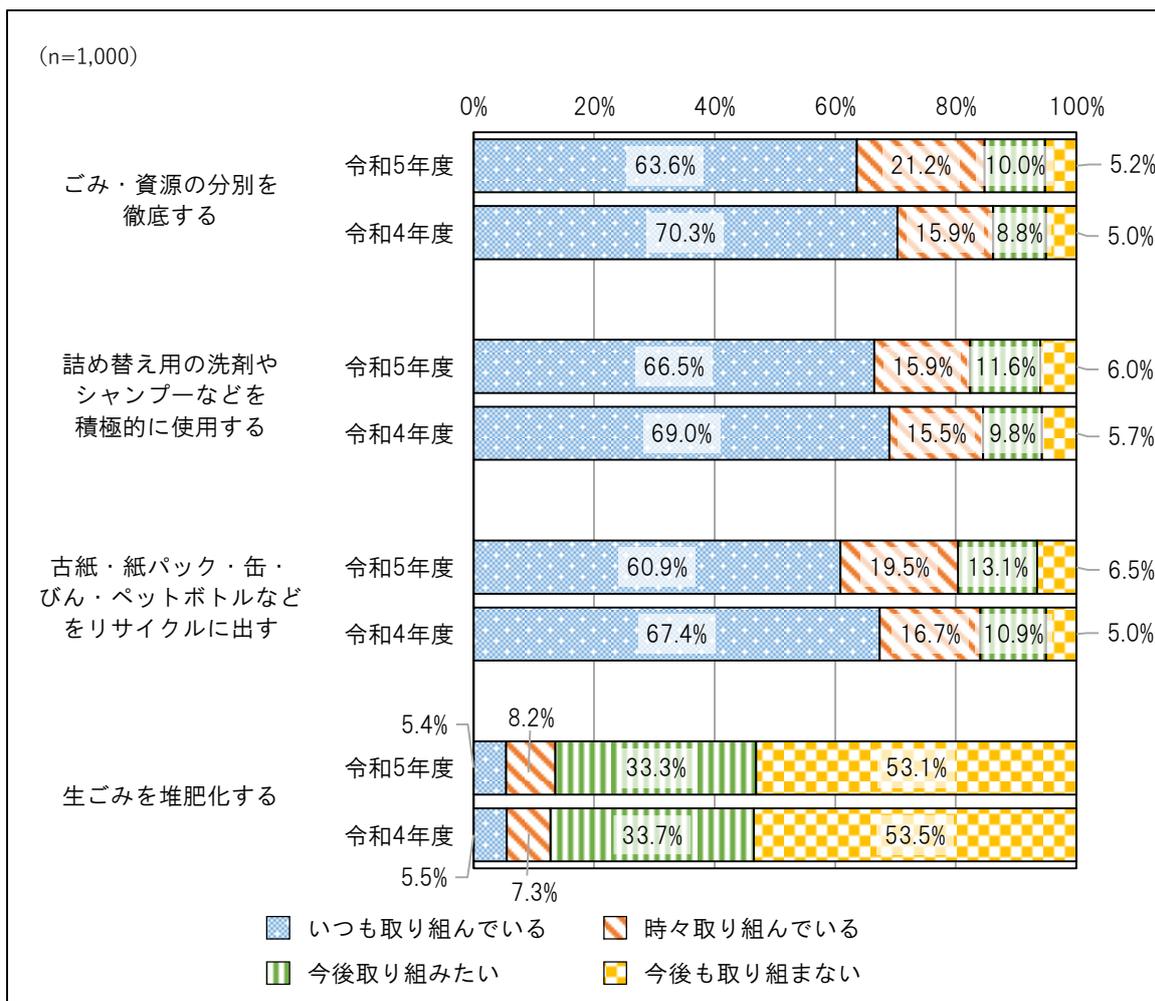
令和4年度調査と比較をすると、全体として大きな違いはありませんでしたが、「冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置する」を除いた取組で「今後も取り組まない」と回答した割合がわずかに増加しました。



Q4. 循環型社会の構築について、日頃行っている取組

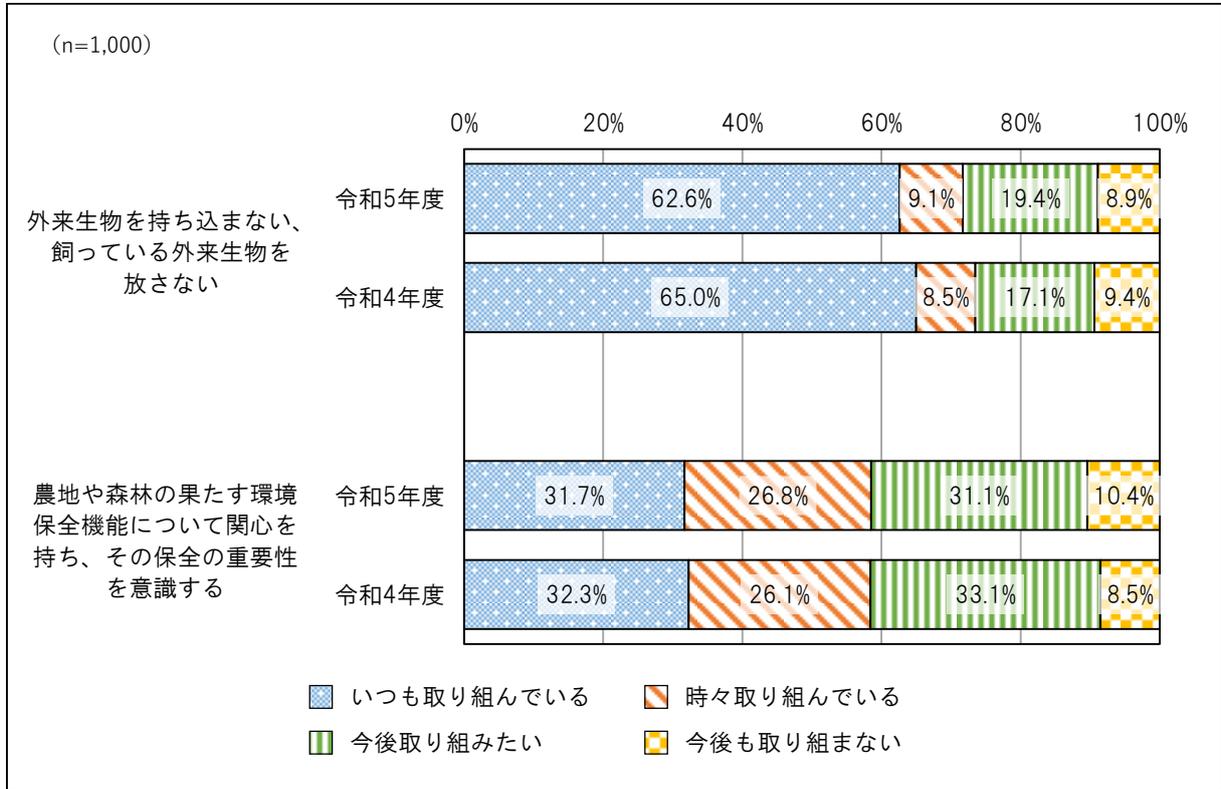
循環型社会の構築に関する取組について、「いつも取り組んでいる」と「時々取り組んでいる」と回答した割合が最も高いのは「ごみ・資源の分別を徹底する」で84.8%、次いで「詰め替え用の洗剤やシャンプーなどを積極的に使用する」が82.4%でした。一方で「今後も取り組まない」と回答した割合が最も高いのは「生ごみを堆肥化する」で53.1%となり、他の取組と比較して回答傾向に違いがみられました。

令和4年度調査と比較をすると、全ての項目で「いつも取り組んでいる」と回答している割合がわずかに減少し、「時々取り組んでいる」と回答している割合がわずかに増加しました。



Q5. 質の高い自然環境の確保について、日頃行っている取組

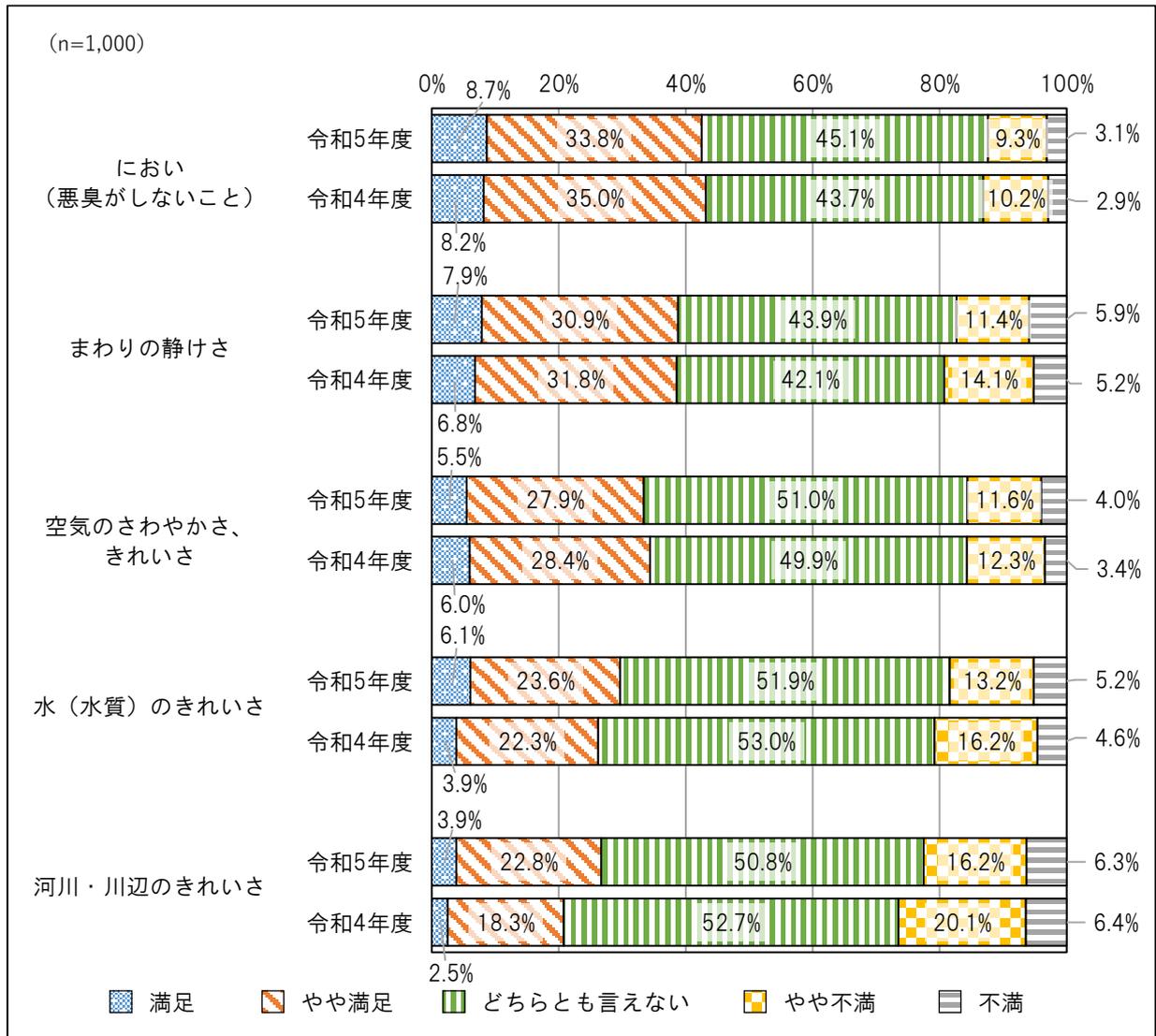
質の高い自然環境の確保に関する取組について、「いつも取り組んでいる」と「時々取り組んでいる」と回答した割合がより高いのは「外来生物を持ち込まない、飼っている外来生物を放さない」で71.7%となりました。



Q6. さいたま市の生活環境への満足度

さいたま市の生活環境への満足度について、「満足」と「やや満足」と回答した割合が最も高いのは「におい（悪臭がしないこと）」で42.5%、次いで「まわりの静けさ」で38.8%であった。一方で、「不満」と「やや不満」と回答した割合が最も高いのは「河川・川辺のきれいさ」で22.5%、次いで「水（水質）のきれいさ」で18.4%となりました。

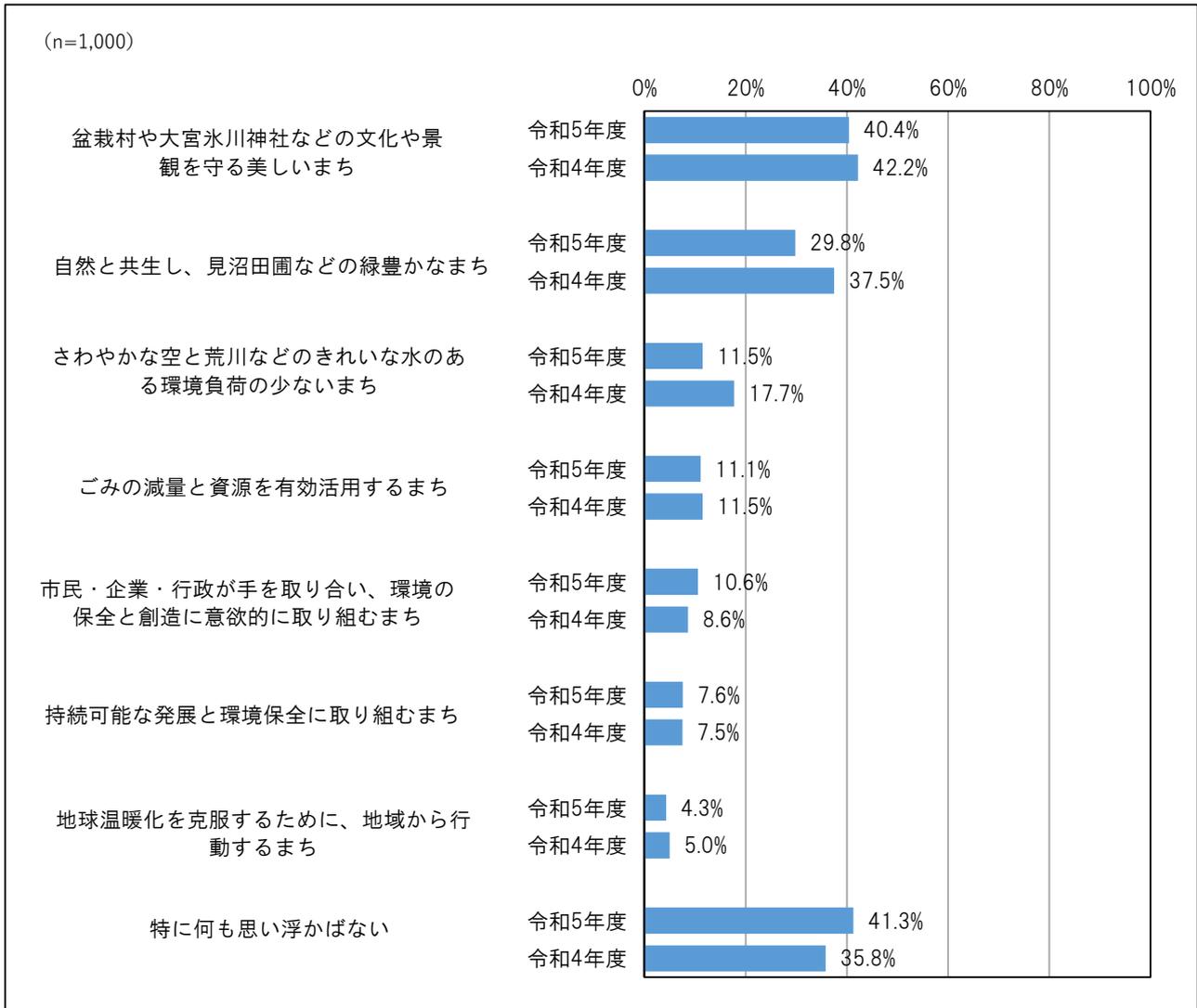
令和4年度調査と比較をすると、「水（水質）のきれいさ」と「河川・川辺のきれいさ」の項目で、「満足」、「やや満足」と回答している割合がわずかに増加しました。



Q7. 「さいたま市」の環境のイメージ（最大3つまで選択）

さいたま市の環境のイメージについて、回答割合が最も高いのは「特に何も思い浮かばない」で41.3%、次いで「盆栽村や大宮氷川神社などの文化や景観を守る美しいまち」で40.4%となりました。

令和4年度調査と比較をすると、「自然と共生し、見沼田圃などの緑豊かなまち」及び「さわやかな空と荒川などのきれいな水のある環境負荷の少ないまち」の項目において令和5年度調査では回答割合が減少していました。一方で、「特に何も思い浮かばない」と回答している割合は、令和5年度調査において増加しました。



3 総合評価及び今後の取組

(1) 基本目標1 地球温暖化の問題に地域から行動し、脱炭素社会を実現する

基本目標1の指標の達成状況については、成果指標の1個が年度目標値を達成し、1個は達成できませんでした。目標指標は、3個が年度目標値を達成し、達成できなかった5個のうち2個は前年度値より良化しました。

年度目標値を達成できた指標については引き続き取組を推進し、達成できなかった指標については、前年度よりも向上を図るとともに、年度目標値の達成に向けて今まで以上の取組を推進する必要があります。

一方で、市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が8.7%であるのに対し、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合計した割合は36.9%という評価となりました。

成果指標の「市域の再生可能エネルギーなどの導入量」については、令和5年度の間目標を上回る結果を得ることができました。市有施設等への再生可能エネルギーの導入や市民等への再生可能エネルギーの導入促進等の取組が成果指標の向上に貢献しているものと考えられます。

また、「市民1人当たりの温室効果ガス排出量」については、「さいたま市地球温暖化対策実行計画」に基づく各種事業の実施や市役所の事務事業における温室効果ガス削減への取組などがまだまだ不十分であると考えられます。

目標達成に向け、今後も、温室効果ガス排出量削減のための支援策を充実させ、市民や事業者等と連携した省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を推進する必要があると考えます。

さらに、原油価格の高騰などエネルギー情勢は、社会情勢や地政学的リスクの影響を受けやすく、脱炭素社会に向け温暖化対策を推進する上で、こういった外的な要因による影響に左右されないように、国の動向、社会情勢の変化にも柔軟に対応できるよう備えておく必要があります。また、時代の変化とともに創出される技術革新にも注視し、事業に取り入れていく検討も必要となります。引き続き、各事業を推進するとともに、今後の情勢の変化に対応したエネルギー政策を講じながら、時代変化に見合った新たな技術等も事業に取り入れ、施策を推進していきます。

指標による評価結果（基本目標1）

	成果指標（個）					目標指標（個）					
	A+	A	B	C	D	A+	A	B	C	D	-
対前年度比	-	1	1	-	-	3	1	1	2	-	2
対年度目標値比	-	1	-	1	-	-	1	2	5	-	1

対前年度比の評価

A+：前年度より良化している。（+10%以上）
 B：前年度と変わらない。（±1%の範囲内）
 D：前年度より悪化している。（-10%以下）

A：前年度より概ね良化している。（+10%～+1%の範囲内）
 C：前年度よりやや悪化している。（-1%～-10%の範囲内）
 -：評価なし

対年度目標値比の評価

A+：年度目標値を大きく上回り達成。（+50%以上）
 B：年度目標値を達成。（±1%の範囲内）
 D：年度目標値を大きく下回り未達成。（-50%以下）

A：年度目標値を上回り達成。（+50%～+1%の範囲内）
 C：年度目標値を下回り未達成。（-1%～-50%の範囲内）
 -：評価なし

※ 計画目標値を達成した指標は、上記評価方法によらず、対前年比評価及び対年度目標値比評価ともに「A+」としています。

(2) 基本目標2 とともに取り組み参加する、循環型都市を創造する

基本目標2の指標の達成状況については、成果指標の1個が年度目標値を達成し、1個は達成できませんでした。目標指標は、3個は年度目標値を達成し、1個は達成できませんでした。

年度目標値を達成できた指標については引き続き取組を推進し、達成できなかった指標については、前年度よりも向上を図るとともに、年度目標値の達成に向けて今まで以上の取組を推進する必要があります。

一方で、市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が11.3%であるのに対し、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合計した割合は33.6%という評価となりました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業者から排出されるごみが激減し、市民から排出されるごみは増加したものの、令和3年度から令和4年度は例年の傾向に戻りつつあります。成果指標の「市民1人1日当たりのごみの総排出量」は、順調に減少していますが、平成28年度の家ごみ組成分析調査と令和3年度の同調査を比較して、分別の傾向に変化がありませんでした。新型コロナウイルス感染症の影響により、食品のテイクアウトや宅配が普及し、今後も家庭から排出されるもえるごみに食品ロスやプラスチック類の増加が予測されることから、市民への普及啓発が課題であると捉えています。今般改定した第4次さいたま市一般廃棄物処理基本計画と連携しながら、市民の更なる行動変容を促していきます。

成果指標の「ごみの総排出量に対する最終処分比率」は、基準値を0.34%超過する結果となりました。要因としては、クリーンセンター大崎の基幹的設備改良工事に伴い、市内のごみ処理能力が低下するため、桜環境センターでの灰処理を減らしてもえるごみの処理を優先し、灰の処理は最終処分にしたためです。今後も工事期間中は、同様の処理が続くため、最終処分比率について、注視していく必要があります。

引き続き、プラスチック資源循環法の施行やアフターコロナを含めた本市を取り巻く社会情勢の変化を見据えながら、これまでの3Rに資する事業を公民連携により継続・拡大する必要があります。

指標による評価結果（基本目標2）

	成果指標（個）					目標指標（個）				
	A ⁺	A	B	C	D	A ⁺	A	B	C	D
対前年度比	1	-	-	1	-	-	3	-	1	-
対年度目標値比	1	-	-	1	-	1	1	1	1	-

対前年度比の評価

- A⁺：前年度より良化している。（+10%以上）
- B：前年度と変わらない。（±1%の範囲内）
- D：前年度より悪化している。（-10%以下）

- A：前年度より概ね良化している。（+10%～+1%の範囲内）
- C：前年度よりやや悪化している。（-1%～-10%の範囲内）
- ：評価なし

対年度目標値比の評価

- A⁺：年度目標値を大きく上回り達成。（+50%以上）
- B：年度目標値を達成。（±1%の範囲内）
- D：年度目標値を大きく下回り未達成。（-50%以下）

- A：年度目標値を上回り達成。（+50%～+1%の範囲内）
- C：年度目標値を下回り未達成。（-1%～-50%の範囲内）
- ：評価なし

※ 計画目標値を達成した指標は、上記評価方法によらず、対前年比評価及び対年度目標値比評価ともに「A⁺」としています。

(3) 基本目標3 自然と共生し、多様ないのちが息づくまちを実現する

基本目標3の指標の達成状況については、成果指標が年度目標値を達成できませんでした。目標指標は、2個は年度目標値を達成し、1個は達成できませんでした。

年度目標値を達成できた指標については引き続き取組を推進し、達成できなかった指標については、前年度よりも向上を図るとともに、年度目標値の達成に向けて今まで以上の取組を推進する必要があります。

市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が18.3%であるのに対し、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合計した割合は29.9%という評価となりました。

成果指標の「水辺や緑地の保全・再生活動に関心がある市民の割合」は基準値を2.6%下回る結果となりました。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言等の影響により様々な市民活動や市のイベント等が制限されましたが、令和4年度から徐々に再開され、市民が水辺や緑地の保全・再生活動に参加する機会が増えつつあります。各事業は順調に進捗しているものの、水辺や緑地の保全・再生活動に対する市民の関心の向上には至っていない状況です。

今後、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、感染防止対策をとりながら魅力ある活動やイベント等の参加機会を増やすことができれば、水辺や緑地の保全・再生活動に関心がある市民が増加すると期待されます。そこで、「第2次計画」の事業の他にも、「さいたま市緑の基本計画（改訂版）」などに掲げる様々な施策事業を、市民や学校、事業者と連携して実施することで、市内の魅力ある水辺や緑地を効果的にPRするとともに、市民参加型の体験活動などの情報をさらに周知していきます。また、各種施策事業を実施するにあたっては、所管部局間の連携を一層強化し、効果的・効率的な事業の実施を図っていきます。

指標による評価結果（基本目標3）

	成果指標（個）					目標指標（個）				
	A+	A	B	C	D	A+	A	B	C	D
対前年度比	-	-	-	1	-	-	3	-	-	-
対年度目標値比	-	-	-	1	-	-	2	-	1	-

対前年度比の評価

- A+：前年度より良化している。（+10%以上）
- B：前年度と変わらない。（±1%の範囲内）
- D：前年度より悪化している。（-10%以下）

- A：前年度より概ね良化している。（+10%～+1%の範囲内）
- C：前年度よりやや悪化している。（-1%～-10%の範囲内）
- ：評価なし

対年度目標値比の評価

- A+：年度目標値を大きく上回り達成。（+50%以上）
- B：年度目標値を達成。（±1%の範囲内）
- D：年度目標値を大きく下回り未達成。（-50%以下）

- A：年度目標値を上回り達成。（+50%～+1%の範囲内）
- C：年度目標値を下回り未達成。（-1%～-50%の範囲内）
- ：評価なし

※ 計画目標値を達成した指標は、上記評価方法によらず、対前年比評価及び対年度目標値比評価ともに「A+」としています。

(4) 基本目標4 安全で誰もが暮らしやすい生活環境を実現する

基本目標4の指標の達成状況については、成果指標が前年度より良化しましたが、年度目標値は達成できませんでした。目標指標は、全ての指標が年度目標値を達成し、順調に推移しています。

年度目標を達成できた指標については引き続き取組を推進し、達成できなかった指標については、前年度よりも向上を図るとともに、年度目標値の達成に向けて今まで以上の取組を推進する必要があります。

市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が22.7%であるのに対し、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合計した割合は27.6%という評価となりました。

成果指標の「生活環境（空気・水のきれいさ、静けさ、悪臭）に満足している市民の割合」は前年度より増加していますが、引き続き生活環境全体の向上に取り組むことが求められています。

大気質の保全については、環境基準を概ね達成するなど、継続した取組が進められていますが、広域的な大気汚染対策等も引き続き進める必要があります。また、交通環境対策については、地球温暖化対策と連動させながら取組を推進することが重要です。

水質の保全については、日常生活や事業活動において河川等への汚濁負荷を軽減するための取組を継続して進める必要があります。

また、本市の良好な都市景観や歴史的・文化的環境を次の世代へ継承していくための保全・活用の取組を進めていく必要があります。新たに作成した文化財キャラクターを有効活用したり、積極的に親子講座を開催したりするなど、次世代を見据えた文化財保護行政への関心を高められるようさらなる普及啓発に努めます。

市民生活や事業活動の基盤となる安全・安心で快適な生活環境を確保するため、市民、事業者、行政の連携・協力のもと取組を推進していきます。

指標による評価結果（基本目標4）

	成果指標（個）					目標指標（個）				
	A+	A	B	C	D	A+	A	B	C	D
対前年度比	-	1	-	-	-	2	-	1	-	-
対年度目標値比	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-

対前年度比の評価

A+：前年度より良化している。（+10%以上）

B：前年度と変わらない。（±1%の範囲内）

D：前年度より悪化している。（-10%以下）

A：前年度より概ね良化している。（+10%～+1%の範囲内）

C：前年度よりやや悪化している。（-1%～-10%の範囲内）

-：評価なし

対年度目標値比の評価

A+：年度目標値を大きく上回り達成。（+50%以上）

B：年度目標値を達成。（±1%の範囲内）

D：年度目標値を大きく下回り未達成。（-50%以下）

A：年度目標値を上回り達成。（+50%～+1%の範囲内）

C：年度目標値を下回り未達成。（-1%～-50%の範囲内）

-：評価なし

※ 計画目標値を達成した指標は、上記評価方法によらず、対前年比評価及び対年度目標値比評価ともに「A+」としています。

(5) 基本目標5 すべての主体が手を取り合い、環境の保全と創造に意欲的に取り組むまちを実現する

基本目標5の指標については、成果指標の年度目標値を達成できませんでした。一方で目標指標は、全てが年度目標値を達成し、4個は前年度より良化しました。1個は前年度より悪化しましたが、年度目標値は達成しているため、引き続き取組を推進していきます。

市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が13.3%であるのに対し、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合計した割合は30.8%という評価となりました。

成果指標の「環境に配慮した行動を実施している市民の割合」は、年度目標値を達成していないものの、90%以上の高い割合で推移しており、多くの市民が日常生活の中で身近な取組を実施していることが表れています。一方で、市民アンケートによる進捗評価（順調度）の結果から、市の取組を十分に認知している市民は多くないことが窺えます。

成果指標の更なる向上に向けては、将来を担う子どもたちへの環境教育を推進するとともに、幅広い世代が身近な場所で環境学習に取り組むことができる機会づくりを進めていく必要があります。環境教育の推進に当たっては、DX化の進展等の教育現場の変化に即した事業を展開することや、市内の環境施設や民間事業者などと連携し、教育・学習・体験の場や機会をさらに充実させていくことが重要です。

また、環境保全活動に関する取組がより大きな成果を得るために、市民や事業者等の環境保全活動に対して支援を行うとともに、様々な主体のパートナーシップや、環境活動のネットワーク化を支援することで、その輪を広げていくことが効果的と考えます。

こうしたことから、環境イベントの実施やSNS等の様々な媒体を通じて市の取組を十分に周知・啓発し、市民・事業者等の行動変容を促すとともに、様々な主体の連携、パートナーシップを促す仕組みづくりに取り組み、事業を効果的・効率的に展開して、施策を推進していきます。

指標による評価結果（基本目標5）

	成果指標（個）					目標指標（個）				
	A+	A	B	C	D	A+	A	B	C	D
対前年度比	-	-	-	1	-	4	-	-	-	1
対年度目標値比	-	-	-	1	-	3	2	-	-	-

対前年度比の評価

- A+：前年度より良化している。（+10%以上）
- A：前年度より概ね良化している。（+10%～+1%の範囲内）
- B：前年度と変わらない。（±1%の範囲内）
- C：前年度よりやや悪化している。（-1%～-10%の範囲内）
- D：前年度より悪化している。（-10%以下）
- ：評価なし

対年度目標値比の評価

- A+：年度目標値を大きく上回り達成。（+50%以上）
- A：年度目標値を上回り達成。（+50%～+1%の範囲内）
- B：年度目標値を達成。（±1%の範囲内）
- C：年度目標値を下回り未達成。（-1%～-50%の範囲内）
- D：年度目標値を大きく下回り未達成。（-50%以下）
- ：評価なし

※ 計画目標値を達成した指標は、上記評価方法によらず、対前年比評価及び対年度目標値比評価ともに「A+」としています。

